資料－２

保護林等における生物多様性の観点からの評価手法について（案）

No	保護林等の区分	考えられる調査手法	現状等の例	今後の取組方法
1	植物群落保護林 （レブンアツモリソウ、崕山等）	○指標植物を設定し、その生育を調査 ○ＤＮＡマーカーを活用した調査	○崕山ではプロットを設けて調査事業実施 ○レブンアツモリソウでは森林総研北海道支所によるＤＮＡ分析事例がある。	○植物の利用地と土地の利用と生育の存在と、保護林の対象と、保護林の応用と、保護林の応用と、保護林の応用

No	保護林等の区分	考えられる調査手法	現状等の例	今後の取組方法
6	一般の天然林	○ 森林資源調査のモニタリング ○ 森林ボランティア等による生息数調査、シカの活動状況調査 ○ 森林GISの活用	○ 道路ロのロプでプに所を上箇地図定査生予調植施グに実ンジモッロのロ調ゾ被グエ、ンリ、息リし生タ用のニ活等握施ゾ把の計調活どた映な報大モをマ把実エをS林況になっ反え情膨源タグをがるタI森林ど辺行の使のが資一ヒ況道け一Gで況な周を等く種量。林デ、状海おデ林部地け廊化歴な少理る。 ○ 森林の北にの森一の付回図履く希処あ ○ 全グみる順緑分施わた、一題るヒ進て先方林、思ま。デ課グエ、が立優一業ろがた、る リし生てカ備をの。施こ況っ足な タ用のしシ握整画査用のと状か不と ○ 査シ害道マ、際位のの業し、タも ○ 調ゾ被全グみる順緑分施わた、一題 ○ るヒ進て先方林、思ま。デ課 ○ グエ、が立優一業ろがた、る ○ ン、息い、が立優一業ろがた、る ○ リし生てカ備をの。施こ況っ足な ○ タ用のしシ握整画査用のと状か不と ○ ニ活等握施ゾ把の計調活どた映な報大 ○ モをマ把実エをS林況になっ反え情膨 ○ 植施グに実ン源タグをがるタI森林ど辺行の使のが ○ 行クタ資一ヒ況道け一Gで況な周を等く種量。 ○ 試ェニト林デ、状海おデ林部地け廊化歴な少理る。 ○ 試ェニト森の北にの森一の付回図履く希処あ	○ 人で所成タ箇作一析地生定のデ分現再行予図存・な系試施生既集要態、実植る収必生案ト等すの等、提ク況関子査生のェ現に因調再法ジ林地的生林手ロ森現為植森たプ ○ と査向けに調 ○ 調 ○ 査 ○ 人 ○ 人 （タしンと中セ等施い業実あ事をれ生組ふ再取全然の保自様境同環は部林で一森一て） ○ 等ビ検域つレを地にを査護無タ調保有一な系のデ要態性査必生要調で林必の上森の存た。な定既しる。た設、一す新のきュ討 ○ 又不に調業生新無の施植更有そのる。原のの、後すりへ域い今討よ集地行、検に群るをえき等物あ等まつ業生に査踏に施の態調を方の来状、果り去本のき結あ過は能つ査の

（参考）保護林等における生物多様性の観点からの評価手法について
一林野庁保護林モニタリング調査マニュアル（素案）より抜粋版

No	保護林等の区分	保全管理の基準	指標	調査方法
1	植物群落保護林	○保護対象の植物が健全に生育していること	○保護対象群落の生育調査 ○周辺森林、土地利用の状況調査	○基礎調査（既存資料の収集、整理、森林情報図の作成、以下同じ） ○現地調査（毎木調査、林分構造調査、稚幼樹調査、植生調査、林内照度調査等）
2	特定動物生息地保護林	○保護対象種が健全に生息していること ○対象動物の繁殖地又は生息地環境が保全されていること	○対象動物の生息状況（繁殖状況）、生息環境の状況 ○周辺森林、土地利用の状況調査	○基礎調査 ○現地調査 ・森林調査（林分構造調査、植生調査） ・動物調査（対象種の生育確認調査等）
3	林木遺伝資源保存林	○保存対象樹種に係る遺伝資源が保存され、当該樹種が健全に生育	○保存対象種の個体数、密度 ○周辺森林、土地利用の状況調査 （遺伝子分析を除く）	○基礎調査 ○現地調査（毎木調査、林分構造調査、稚幼樹調査、植生調査、林内照度調査等） （毎木調査は必須）
4	森林生態系保護地域 （森林生物遺伝資源保存林）	○原生的な天然林を広範囲に保全 ○森林生態系の健全さ ○適正な保全、利用 ○動物相、植物相ごとの総合的な調査	○原生的な森林の面積、林分構成 ○植物の生育状況、希少植物の生育条項、動物の生育状況、希少動物の生息の有無 ○利用動態（利用者数、経路、時期等）	○基礎調査 ○現地調査 ・森林調査（調査対象林分を基礎調査から抽出一毎木調査、林分構造調査、稚樹植生調査、植生調査等） ・動物調査（基礎調査から調査対象種を選定一アンブレラ種、指標種、希少種など） ・利用動態調査（基礎調査をもとに必要性を判断）
5	緑の回廊	該当なし		
6	一般の天然林	該当なし		

注： 林野本庁で上記項目の調査につき、５年間で保護林を一巡するように実施することを検討中